


学校教育・義務教育
の課題
物質科学科・竹村&羽田

テーマ設定の理由


現代社会において優秀な人材を要している中、それを育てるための教育課程を行えていないと考え、その現状を調べてみようと思ったため。

文部科学省での見解

- これは、日本の学校が、それぞれの時代において社会の要請に応えながら、子供たちに必要とされる資質・能力を育むことができるよう発展してきた姿であり、こうした「日本型学校教育」は、国際的にも高く評価され（※1）、学力面では、OECD・PISA調査等の各種国際調査を通じて世界トップレベルとなっているとともに、勤勉さ、礼儀正しさなど道徳面、人格面でも評価されてきた（※2）。このようなことから、「日本型学校教育」の海外展開が要望されるようになってきている。今後も、このような「日本型学校教育」の有効性が生かされることが重要である。

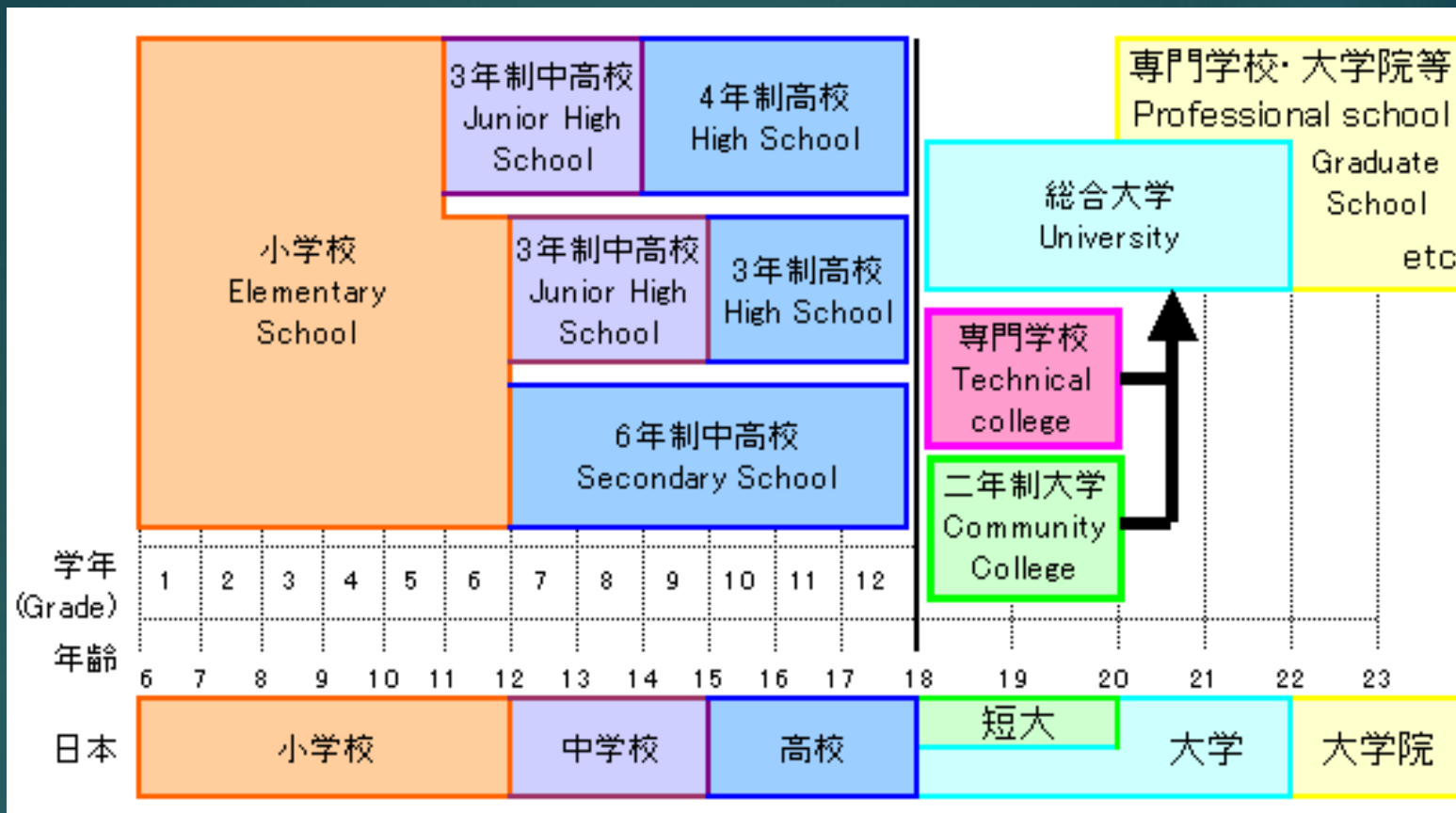


- 日本では、教員が一人一人の子供の状況を総合的に把握して指導し、学校が子供の人格的成長に大きな役割を果たしている。加えて、通学路の安全確保や、夜回り指導など、教員は学校外での子供の活動にも対応している場合もある。このように、日本社会においては、学校や教員の熱心な取組や大きな負担の上で、子供に関する諸課題に対応してきた。

- 
- こうした教員の献身的な取組は、日本の学校教育の高い成果に貢献している一方で、教員に大きな負担を強いている状況にある。

▶ 基本的な知識・技能を習得し、
それを活用する力とともに、膨
大な情報から何が重要かを主体
的に判断し、自ら問いを立てて
その解決を目指し、他者と協働
しながら新たな価値を生み出し
ていくことは、

将来の予測が困難な時代を生き**抜**く上で最も必要な資質・能力である。また、こうした課題の発見や解決の過程において、手段としてICTを効果的に活用できる力を育成することも必要である。



日本の教育とアメリカの教育では上記の画像の通り、教育を行う早さが圧倒的に違
く、日本とアメリカとの間で学習能力に差ができるのは当たり前と言わざるを得ない
状況です。

今までのものを見ていくと、文部
科学省が提示していることに無理
難題が生じていたり、今の学校教
育では不可能なことを学生たちに
求めていることが今回のテーマの
問題点です。

今後の課題

- ・ 学校教育の在り方や現代の社会に合った教育にシフトチェンジしていくこと
 - ・ より一層良い人材を育てていくための教育方針に変えていくこと
- ETC...

SDGs実現のために 10代からの提言

義務教育を見直し、現代社会において必要な科目を選出し、現代社会に必要な人材を義務教育で育てられるようにするべき

感想・考察

今回のテーマについて調べてみて、感じたことは漢文などといった将来的に使うことが少ないものより、お金の使い方、役所の仕組みを勉強するほうが良いと感じた。